

令和2年度 第5回広島市感染症対策協議会

- 【日時】 令和3年1月18日（月）19:00～20:00
【場所】 広島市役所14階第7会議室
【出席者】 小林 正夫、坂口 剛正、大毛 宏喜、石川 暢久、吉岡 宏治、堂面 政俊、
佐藤 貴、高橋 宏明、新甲さなえ、増田 裕久、長岡 義晴、松原 啓太、
南 心司

1 感染症に関する最近の情報

(1) 新型コロナウイルス感染症に係る対応等について（資料1 P1～36）

令和3年1月7日、東京都、神奈川県、千葉県及び埼玉県に対し、また、1月13日には新たに栃木県、岐阜県、愛知県、京都府、大阪府、兵庫県及び福岡県に2月7日までの緊急事態宣言が発出された。今回の緊急事態宣言は、社会経済活動を幅広く止めるのではなく、感染リスクの高い場面に絞って、効果的・重点的な対策を徹底することとしており、具体的には、飲食を伴うものを中心として対策を講じる。そのため、飲食につながる人の流れを制限する、飲食店に対する営業時間短縮要請を行うと共に、夜間の外出自粛の要請、テレワークの推進などを行うこととしている。

本県においては緊急事態宣言の発出はないものの、広島県は「第2次 新型コロナ感染拡大防止集中対策」を1月18日から2月7日まで実施することとした。この対策では、広島市に緊急事態措置に準じた対策を行うこととしており、外出機会の削減や市内全域の飲食店における営業時間の短縮等を要請している。

さらに広島県は、広島市中区、東区、南区、西区の全住民及び就業者を対象にPCR検査を実施することを決めた（詳細な検査方法や開始時期については検討中）。

本市においては、引き続き、市民に対して3密の回避やマスク着用に加え、外出機会の削減や緊急事態宣言の対象となっている都府県への往来自粛等について要請を行うとともに、広島県と連携して感染拡大防止に向けた取り組みを推進していく。

（委員意見）

- ・ 新規感染者数の減少に向けて、引き続き関係機関と連携して対策を行ってほしい。

(2) 新型コロナウイルスワクチン接種について（資料1 P37～52）

国は、2月中にも開始が予定される医療従事者等への優先接種を念頭に、1月8日付け健発0108第1号「医療従事者等への新型コロナウイルス感染症に係る予防接種を行う体制の構築について」を発出し、当初、小分けを想定していなかったファイザー社製の新型コロナウイルスワクチンの小分けに関する条件と移送方法に係る考え方を示した。通知において、-75℃のディープフリーザーを設置する施設を「基本型接種施設」とし、当該施設から小分けしたワクチンを保冷バッグ等で冷蔵の状態を維持することにより、「連携型接種施設」へ移送できることとされた。

基本型接種施設は、1,000人超の医療従事者等に対する接種を予定するとともに、マッチングした連携型接種施設（原則として医療従事者等の数が100人以上であることとされている。）からの申告に基づき、ワクチンの小分けを行い、両者のいずれかが移送を行うこととされている。

これらの体制作りは、都道府県が中心になって行うこととされており、広島県においても県内医療機関に対して医療機関内の接種予定者数の確認とともに、接種体制構築に向けた協力依頼が行われている。

本市においても、医師会等と協力の上、早急に接種に向けた取り組みを加速していく。
(委員意見)

- ・ 県や医師会と連携して、ワクチン移送を含めた接種体制を迅速に構築してほしい。

2 12月の定点把握対象感染症発生状況《公開》(資料2、3)

※感染症法に定められた感染症のうち、指定された医療機関のみが報告を行う感染症

3 全数把握対象感染症の発生状況《公開》

区分	病名	令和2年12月分	令和3年1月分
		報告日 12/7~1/3	報告日 1/4~1/14 現在
2類	結核	10人 (結核6人、潜在性結核4人)	
3類	腸管出血性大腸菌	1人 (12/16)	
4類	E型肝炎	1人 (12/22)	
	つつが虫病	4人 (12/14、12/15、12/18、12/23)	
	レジオネラ症	1人 (12/14)	1人 (1/5)
5類	ウイルス性肝炎		1人 (1/7)
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症		1人 (1/5)
	侵襲性肺炎球菌感染症	1人 (1/2)	
	梅毒	12人 (12/7 (7人)、12/15、12/18、 12/21、12/28 (2人))	
指定感染症	新型コロナウイルス感染症	1,763人	453人

()は届出日

4 その他《公開》

次回開催予定日 令和2年3月15日(月) 14階第7会議室

【資料】

資料1：最近の感染症情報

資料2：12月の感染症の概要

資料3：定点把握五類感染症(月報対象)の長期的変動

1 患者情報

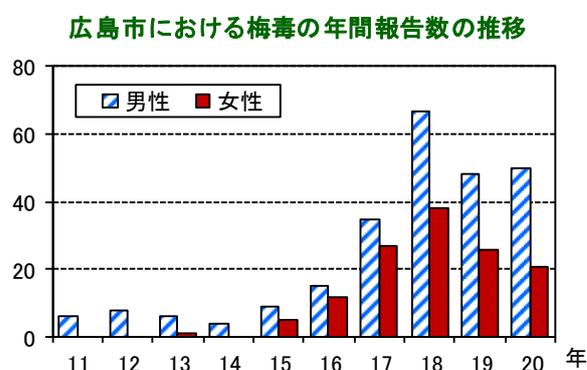
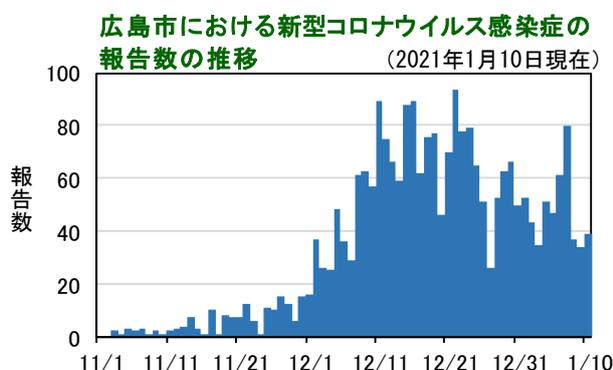
(1) 概要

定点からの内科・小児科・眼科系疾患の患者報告数は、12月は457人で、前月比1.04とほぼ横ばいであった。

ヘルパンギーナはやや増加、咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎、突発性発しんはほぼ横ばい、手足口病はやや減少した。

(2) 特記事項

- 広島市では11月下旬以降、新型コロナウイルス感染症の報告数が急増し、2020年から1月10日までの累計は2,813件（2020年11月以降の累計は2,456件）となった。広島県と広島市は「新型コロナ感染拡大防止集中対策」（期間：12月12日～2月7日）に取り組み、12月下旬以降は徐々に減少に向かっているが、予断を許さない状況が続いている。国内では12月末以降に、複数の種類のSARS-CoV-2新規変異株が、海外渡航歴のある者またはその接触者から検出されている。そのうちVOC-202012/01及び501Y.V2については、感染性が増加している可能性が示唆されており、国内で持続的に感染した場合には、現状より急速に拡大するおそれがある。また、全国的には増加が続いており、政府は令和3年1月7日に、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県を対象に、緊急事態宣言（期間：1月8日から2月7日まで）を行い、更に1月14日から栃木県、岐阜県、愛知県、京都府、大阪府、兵庫県、福岡県を追加した。
- 梅毒は、12月に12件の報告があり、2020年の累計報告数は71件（2019年は74件）となった。女性の報告数は2018年をピークに減少傾向であるが、男性の報告数は高止まりの傾向にあり引き続き注意が必要である。感染が疑われる場合は早期に医療機関を受診し、パートナーなど周囲で感染の可能性のある人も検査を受け、治療を行うことが重要である。
- バンコマイシン耐性腸球菌は、例年0～1件の報告であったが、2020年は合計6件の報告が複数の医療機関からあった。全国でも2013年以降は年間50～80件程度で推移していたが、2020年は134件（速報値：2021年1月8日現在）と増加しており、今後の動向に注意が必要である。



(3) 12月の1類～5類感染症（全数報告）患者発生数

- 1類感染症：なし
- 2類感染症：結核 10件（患者：6件、潜在性結核：4件）
- 3類感染症：腸管出血性大腸菌感染症 1件
- 4類感染症：E型肝炎 1件
つづが虫病 4件
レジオネラ症 1件
- 5類感染症：侵襲性肺炎球菌感染症 1件
梅毒 12件
- 指定感染症：新型コロナウイルス感染症 1,763件

(4) 今後の流行予測

新型コロナウイルス感染症の発生動向に注意が必要である。それ以外は該当なし。

2 検査情報

なし

5類感染症定点情報
(令和2年12月解析分)

1. 週報対象(第50週～第53週)

No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり	今後の予測	No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり	今後の予測
1	インフルエンザ		3	0.08		10	流行性耳下腺炎		5	0.20	
2	咽頭結膜熱	⇨	24	1.00		11	RSウイルス感染症		3	0.12	
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	⇨	56	2.34		12	急性出血性結膜炎		-	-	
4	感染性胃腸炎	⇨	186	7.75		13	流行性角結膜炎		6	0.76	
5	水痘		16	0.66		14	細菌性髄膜炎		-	-	
6	手足口病	⇩	62	2.59		15	無菌性髄膜炎		-	-	
7	伝染性紅斑		1	0.04		16	マイコプラズマ肺炎		-	-	
8	突発性発しん	⇨	24	1.00		17	クラミジア肺炎		-	-	
9	ヘルパンギーナ	⇨	56	2.34		18	感染性胃腸炎(ロタウイルス)		-	-	

2. 月報対象(12月)

No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり
1	性器クラミジア感染症	⇨	48	5.33
2	性器ヘルペスウイルス感染症	⇨	15	1.67
3	尖圭コンジローマ		1	0.11
4	淋菌感染症	⇩	22	2.44
5	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	⇨	15	2.14
6	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症		-	-
7	薬剤耐性緑膿菌感染症		-	-

発生記号

前月と比較しておおむね1:2以上の増減	↑	↓
前月と比較しておおむね1:1.5~2の増減	⇨	⇩
前月と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減	⇨	⇩
ほぼ横ばい(発生件数少数のものを含む)	⇨	

予測記号

流行始まり	① 流 ↗
流行中	② 流 →
流行終息傾向	③ 流 ↘
終息	④ 終

全数把握感染症報告数(令和2年12月分)

第50週～第53週(12月7日～1月3日)報告分

類型	疾患名	広島市		全国		
		報告数	累積	報告数	累積	
一類	1 エボラ出血熱	-	-	-	-	
	2 クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	-	
	3 痘そう	-	-	-	-	
	4 南米出血熱	-	-	-	-	
	5 ベスト	-	-	-	-	
	6 マールブルグ病	-	-	-	-	
	7 ラッサ熱	-	-	-	-	
二類	8 急性灰白髄炎	-	-	-	-	
	9 結核	10	136	1,225	17,108	
	10 シフテリア	-	-	-	-	
	11 重症急性呼吸器症候群	-	-	-	-	
	12 中東呼吸器症候群	-	-	-	-	
	13 鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-	-	
	14 鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-	-	
三類	15 コレラ	-	-	-	1	
	16 細菌性赤痢	-	-	1	87	
	17 腸管出血性大腸菌感染症	1	24	105	3,064	
	18 腸チフス	-	-	-	21	
	19 パラチフス	-	1	-	7	
	20 E型肝炎	1	6	36	450	
四類	21 ウエストナイル熱	-	-	-	-	
	22 A型肝炎	-	1	2	119	
	23 エキノコックス症	-	-	3	23	
	24 黄熱	-	-	-	-	
	25 オウム病	-	-	1	6	
	26 オムスク出血熱	-	-	-	-	
	27 回帰熱	-	-	-	15	
	28 キャサスル森林病	-	-	-	-	
	29 Q熱	-	-	-	-	
	30 狂犬病	-	-	-	1	
	31 コクシジオイデス症	-	-	-	6	
	32 サル痘	-	-	-	-	
	33 ジカウイルス感染症	-	-	-	1	
	34 重症熱性血小板減少症候群	-	3	3	78	
	35 腎症候性出血熱	-	-	-	-	
	36 西部ウマ脳炎	-	-	-	-	
	37 ダニ媒介脳炎	-	-	-	-	
	38 炭疽	-	-	-	-	
	39 チクングニア熱	-	-	-	3	
	40 つつが虫病	4	9	193	511	
	41 デング熱	-	1	1	45	
	42 東部ウマ脳炎	-	-	-	-	
	43 鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く。)	-	-	-	-	
	44 ニバウイルス感染症	-	-	-	-	
	45 日本紅斑熱	-	4	3	420	
	46 日本脳炎	-	-	-	5	
	47 ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	-	
	48 Bウイルス病	-	-	-	-	
	49 鼻疽	-	-	-	-	
	50 ブルセラ症	-	-	-	2	
	51 ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	-	
	52 ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	-	
	53 癩しんチフス	-	-	-	-	
	54 ポツリヌス症	-	-	-	4	
	55 マラリア	-	-	-	20	
	56 野兔病	-	-	-	-	
	57 ライム病	-	-	-	26	
	58 リッサウイルス感染症	-	-	-	-	
	59 リフトバレー熱	-	-	-	-	
	60 類鼻疽	-	-	-	1	
	61 レジオネラ症	1	17	88	2,031	
	62 レプトスピラ症	-	-	-	16	
	63 ロッキー山紅斑熱	-	-	-	-	
	五類	64 アメーバ赤痢	-	5	41	610
		65 ウイルス性肝炎	-	2	16	245
		66 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	-	14	175	1,922
		67 急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)	-	-	2	32
		68 急性脳炎	-	7	19	482
69 クリプトスポリジウム症		-	-	-	6	
70 クロイツフェルト・ヤコブ病		-	3	11	149	
71 劇症型溶血性レンサ球菌感染症		-	8	55	752	
72 後天性免疫不全症候群		-	9	66	1,075	
73 ジアルジア症		-	-	4	27	
74 侵襲性インフルエンザ菌感染症		-	2	11	249	
75 侵襲性髄膜炎菌感染症		-	-	-	14	
76 侵襲性肺炎球菌感染症		1	19	86	1,624	
77 水痘(入院例に限る。)		-	-	19	358	
78 先天性風しん症候群		-	-	-	1	
79 梅毒		12	71	405	5,784	
80 播種性クリプトコックス症		-	-	5	150	
81 破傷風		-	1	5	105	
82 バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	-	-	-	-		
83 バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	6	12	134		
84 百日咳	-	40	53	2,932		
85 風しん	-	-	1	100		
86 麻しん	-	-	-	13		
87 薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	-	-	10		
指定	88 新型コロナウイルス感染症	1,763	2,464	※ 81,450	※ 241,902	

※新型コロナウイルス感染症の全国報告数は、厚生労働省ホームページから引用(空港検疫及びチャーター便帰国者を除く)